

第10回東西リemann劇セミナー

劇団活動報告集(続)

= 東リ演 = = 西リ演 = = 未加盟劇団 =

劇団やまなみ 福岡現代劇場 広島国鉄演劇サークル

劇団券芸

・ 1970年8月22日・23日

・ 滋賀県大津市坂本町“西教寺”

0775(78)0013

劇団 労 仇 芸 術 劇 場

東京都品川区南大井1-14-16

TEL 輪03(764)6205

劇団員 男 11名 女 13名

研究生 現在 0

劇団創立年月日 1963年9月21日

劇団員の年数 1年未満 6名

1年以上~5年未満 7名

5年以上~10年未満 3名

10年以上~ 8名

「第10回東西リ演全国ゼミナール」のための資料

1. 労芸の歴史

「私たち劇団労芸藝術劇場は、労働者階級の苦悩を苦悩とし、願いを願いとして、変革へのドラマを創造することを切望し、行動する人々へのさゝやかな力となるようにと創立されました。こゝに今日以後、劇団労芸は南部の労働者のための劇団として、その創造活動を繰り広げて行くまでも労働者と共に生き、日本の平和を願う人々と手を組んでたにかう劇団であることを、創立のことばどいいたします。」

一九六三年九月二十一日、この創立のことはを理念に、過去10年間貴重な演劇活動をつづけて来た「劇団十五人会」を発展的に解消して発足しました。以後七年前、いくたの困難や障害とにかかりながら、又、地域密着に立ちえられるから、「働くものの手で、働くものの演劇をつくり広めよう」を合言葉に南部地域を拠点として、創造活動をすゝめてきています。

◇ 第一回公演 早船ちよ 作 蓬莱秦三 脚色 敦坂桃彦 演出

「キューポラのある街」 三幕六場

1964年 春 品川公会堂

◇ 第二回公演 大和雪彦 作 津村雪雄 演出

「バラのベビー」 一幕三場

田村秋子 作 荒井敬亮 演出

「姫岩」 三幕

1964年 夏 川崎労会館

◇ 第三回公演 乾 一雄 作 津村雪雄 演出

「人面裁判」 四幕五場

1964年 秋 品川公会堂 他

◇ 第四回公演 荒井敬亮 作 津村雪雄 演出

「燃え上るペトナム解放の炎」 他二本

1965年 夏 品川公会堂

◇ 第五回公演 金 達寿 作 八木忍一郎脚色 敦坂桃彦 演出

「朴達の裁判」 三幕

1966年 春 品川公会堂

◇ 第六回公演 荒井敬亮 作 敦坂桃彦・津村雪雄 演出

「今日も明日も健たちは」四幕十場（舞芸小劇場合同）

1967年 春 品川公会堂・豊島公会堂

- ◇ 第七回公演 荒井敬亮 作 城坂林彦 演出
「若狭の宿」 二幕
1968年春 品川公会堂
- ◇ 第八回公演 鈴木元一 作 津村喜雄 演出
「制輪子物語」 一幕三場
1969年冬 品川公会堂
- ◇ 第九回公演 青木 菊 原作 荒井敬亮、渡辺太江、お
津村喜雄 演出
「硝煙るう戦場」 三幕十場
1969年秋 品川公会堂(小田町)
豊島公会堂(大宮)
- ◇ 第十回公演 こばやし・ひろし 作 塚田恒夫 演出
「オキナワ」 二幕 (劇団名)
1970年6月 社会文化
東西リ演アフロ年演劇行動参加上演 品川公会堂
大宮市

2. 「硝煙るう戦場」の上演。

69年9月26~27日、品川公会堂 9月29日30日 公会堂
劇団秀芸、舞芸小劇場が合図で脚色上演しました。

舞芸小との合図公演は、67年の今日も明日も俺たちの
回目、今回のこの作品は、安価体制のものでなければならぬ
と、過酷な合理化のなかで不屈にいたかう勞働者群の運
年開季を迎えての面創造の清潔的姿勢として、劇団の統一
その取組みにおける問題美をいくつかあげると

芝居の内容、政治的、社会的状況における本公演
かるこれに於、観客動員は目標に達しなかった。
て1400名。)そのために秀芸独自の赤字として
むこととなり、この整理のために翌70年の春まで
に。創造面では、脚色の弱さ次問題となり、上演以
劇団のてっていレに話合いが出来ぬまま稽古に進
で創造にひびいた。

秀芸

西、東邦演に「星を見つめて」で参加

「硝煙るき戯場」に引きつづき、芳賀は69年秋の東邦演演劇祭に参加しました。内部的には新人の卒業公演という発達から取組みが始めたのですね。東邦演参加という決定がなされてからは、やはり対外的な劇団の公演という形を重視し、劇団のもてる力を出し切るという立場にあって、津村、川端、中川等の立派を含めてキャスティングがなされました。戯曲は、山島の劇団月曜会の土屋清作「星を見つめて」。演出は、渡坂桃彦、装盛は演出の基本プランに全員の意見を含めてみんなで製作されました。

東邦演秋の演劇祭は12月2日より7日までの6日間、社会文化会館で開かれ「星を見つめて」は4日に上演されました。

この戯曲の作者は、「とにかく、今にもつぶれそうになつたうちの劇団をどうするか、幾会を商こうにも人が集つてこぬようでは話にならぬ。それじゃ芝居の稽古の中で學習もし、幾会もやれるよう本を書いて上演する以外にない。」といつているように、作者のモチーフはこゝにあり、劇団もそのことを演出を含めて考えようとしたところに上演の意義をみつけたわけです。それにもかゝわらず、上演をともにした助川（ホッポ）小池（彦三）の二人を失ってしまいました。それなのに理由はあったにせよ、劇団側にどんな問題があったのか、語り合おうとします。

4. 剧団の展望についての語り合

東邦演出前後から、劇団は70年そして将来的に向けてどのような展望をもつのか、という話し合いかつづけられました。具体的な実はなかなかならないのが現状ですが、語合われた内容、確認されたいくつかのこと、又実験に進められていることについて少しく、ざっくりとシテるので可供ひれてみたいと思います。

問題提起として、次のような内容で13000字ばかりの文章が出来ました。

1. 現状の再確認として

- イ. 常任体制の問題
 - ロ. 亦字解説と卒業計画
 - ハ. 営業活動の問題
- 二 创造技術の向上とスタッフの整化
- 木 剧団の倫理

2. 観客を組織し拡大すること

1. 初回後援会の組織化

口、多面的創造活動の必要性

ハ、復数常任体制の確立

ニ、地域組織および観客との交流

3. 稽古場を建設することの重要性

4. 仲くものの劇団とは

イ、東リ演、東俳演のこと

口、労働者階級としての創造・組織運営の確立

70年に向けて劇団員一人ひとりが未来への展望をどうつかまえているのが、お互に解っているようで根幹のところでのくらいちがいを感じている。結局を深めて統一的にビジョンをもとう、それは今なんとしてでも必要である。というところから69年末の懇親会まで不十分ながら討論がなされました。

○ 常任体制について

退団、休団として大口を納めていたひとの減額などに加えて滞納ということで常任会計は最悪の状態でした。常任の意識をひとりひとりはどう考えていくのか、常任体制は劇団の成長とどう結びついているかの話が深められ、常任の必要性が強調されました。常任員のおくれはとりもどされません。しかし常任員は安いので、アルバイトの自由を認め、それゆえその分常任活動が出来ない、したがって劇団員の増強、日常活動での収入により復数常任の方針にむって行くことが確認され、常任会計は劇団会計より独立されました。しかし、稽古場建設の關係から現常任の留任がむづかしくなり、復数常任どころか一人の常任もあぶない現状なのですぐ、常任候補は出ているので、常任体制の確保は出来そうです。

○ 劇団の倫理

問題提起の折の文章を再録するにとどめる。

稽古場における倫理の問題は、今公演において始めて出された問題ではない。この問題は少しづつ改善されつつある。やはり劇団の大きさ欠陥として存在し、今公演においても納得いくところまで責められなかった。「劇団員の演劇に対する姿勢の問題」と言っても、問題の解決にはならない。

68年最初運営委で次の反省を認定している。

(1) 各劇団員の組織的团结が弱いこと。

(2) 創造に対する姿勢、認識に甘さがあること。

- (3) 中堅農園層が耕園の推進力に谷り切れていること。
- (4) 耕園内にエネルギーの充散を求めて外にも求めていること。
- (5) 生活中心的活動が強いこと。
- (6) 若い耕園者が耕園の方面方針について充電イメージ、アップ出来ない事
- (7) 耕園者が組織原則にもとづいて行動しないこと。
- (8) 耕園組織を活性化させる姿勢にかけること。

以上幾点でも確認された反省事項を自主的自賛的におおして行くことが必要である。耕園の問題は「その集団の足進む方向にまとめて凌駕集団の倫理」である。先進の一耕園者が、運営委員会や「耕園の倫理を吹きまくっても、生産性上げないし、創立以来の実績として徹底的に正されなかつた。この問題の発行日、一に自主的自賛的などこうにかへつてはいる。又耕園半ばの問題としてどうえても改善されない。なぜなら、社会との関連のなみで耕園は存在し、隣の政治条件、君主的条件と無縫では右1からだ。「耕園の倫理」はそこを充分にほんせんに上にたて、創造と普及への対応を統一し実現を確立していくことが大切である。必要なことは、一人ひとりの生活者、社会的、政治的条件を出し、集団で確認し、そのなかで最大に創造的にも実現するも發展しうる条件で対応の統一を固めり、決意にことを集団の一員として育っていくことにあらざつ。この耕園民主主義がお互いに貢献されてこそ、身に着くものの創造主義として、その在着が遂に生かされるのではなく、個人の主張的表現主義や、あらための実現主義、いい所を過大擴し、人による表現主義、細胞芸能の精神を真に現度しているといえねばいとす。

⑩ 創設委員会の構成と

十五人会の折、費基金の開発化に欠款している。費用が動きなければ動かない運営会になってしまい、耕園が古い耕園に育ち出来なくなり、自然消滅になってしまふ。そのため必要以上におよびこしになつてはいる。

語合ひでは、顧客の拡大という現実にたつて、どうりう顧客にどうりう声をみせるのがどうことを確実にする必要があるとして語合ひが深められた。このことは、全員に顧客をどう經營して行くかという責任的む負委会づくりと平行して、もっと貢献する必要がある。

費基金は、革口顧客の国際化として、チケット取扱の手段のごとく見えるのではなく、今まで農園を支援してくれた人も個人として耕園者個人と接触を持つことで多く費基金という東面と耕園という東面との組織的交流を通じて、大家の豊富を、生活や感情を舞台によりよく反映させ、農園を正しく歩

させることの出来る組織体として考える必要が確立された。

70年春第一回友の会準備会が開かれ、出席者で次の会をつくる会が決定し、今後稽古場見学会や交流会など劇団の活動を連携してちらつきよおしあげて会員をひろげることが確認された。

○ 多面的創造活動

劇団が発展していくにしたがって、内外ともにその要求が強く多面的になってくる。その多面的求を無視しては、劇団の発展にみづから「本」をつくるものである。無理をしてはならないが、劇団の力にみあう創造内容をひろげる必要があろう。観客の拡大とも結びつけて次のことを話し合われた。

1. 文工隊(川公演班)の作成。1. 二ども劇場、人形劇場。1. 研究公演。(川劇場公演) 1. 舞台美術、効果、照明のセミ・プロ約作業。

そして、具体的には、荒井欽亮作「真善妙判」をやって川公演活動を、大谷謙作「仕事場」で、川劇場活動にくばくかの成果を上げつつある。对外的には今までの仕事量とさほど変わらず、まだ始ったばかりである。

○ 地域劇場および観客との交流

劇団の常任体制を確立して以来かなりすゝめられているが、現在の活動にとどめられている。これでは広範な観客と結びあっていけない。これからは劇団員ひとりひとりが、この意識と必要性をしっかりとうけとめて、全体制に活動していくなければならない。この活動が先導うらうけになってこそ、観客を組織し拡大していく証となり、公演成功の土台となるのだ。この文脈が広範に密にむごとに結びつけてこそ、地域観客の廣範的運営がわたり、劇団が舞台化すべきか真体的にとらえられるのではないか。と提起された。

○ 稽古場建設

今日、稽古状況は変りつゝある。かつて、中央演劇、プロ稽古部演劇界の中心におかれ、新劇運動が進められてきた。しかし、地方地域劇団が、東西リ演の旗のもとに結集し、その地方、地域を拠点として、そこでの社会的政治的状況、運動に密接にむすびつき、文化斗争の面で責任をもつ大きな役割をはたしつゝある今日、社会変革をめざす演劇創造を目指とする、多くの演劇団を無視して演劇状況を語れず、演劇運動も進められなくなっている。

東西リ演に加盟する各々の劇団が、日々不斷に運動を充実発展させてきておりながらこそである。それを成しとげたものは劇団整体の力ではあるけれども、其の確保、自分たちの創造の立場を建設したことによるところは大きい。芸能も、地域における「核」となり、高い創造を身につけ、自ら運んで任ムを果して行くべきときだ。そのために稽古場の建設を70年の重要な課題

とし、具体的な方針を総意によってうち出し、積極的にとり組む。と提起され、何度も話し合ひの上、次のように具体化されている。

1. 場所 品川区南大井1丁目14番16号

1. 票古場面積 52平方米

1. 予算 三百万円(附帯工事一切を含む)

1. 資金 自己資金 150万

劇団事業 50万

对外カンパ 100万

1. 完成予定 45年末~46年初頭

○ 働くものの劇団、東リ演、創造・組織の理念

新しい劇団員から「働くものの演劇とは」「働くものの劇団とは」「アリストクラム演劇とは」「劇団の理念とは」など質問が投げかけられている。古い劇団員は、個人として位置づけに見解は話している。だが どうも本質的なところまで少しきついちがいがある。劇団としての理念を統一することは必要であるでないと、東リ演、東俳演地域における民主団体などとの交流も、統一戦線としての取組みも、真に発展しないのではないか。又、劇団員もひとつひとつ活動に確信をもって行動するのではないか。

劇団員の討論で、東リ演、東俳演、その他の加盟、連帯組織に対する見解と参加の意識をあらためて全体で確認することも大切だろう。この討論をすることによって、東リ演の中心課題でもあるアリストクラム演劇の認識、労働者劇団の考え方を深められることであろうし、連帯の意識が、あらためて確認されていく劇団全体のものとなるっていくと思う。

68年に「労働者階級としての創造理念とその組織について」の学習を約一ヶ月にわたっておこなった。だがその成果は充分でなかった。学習会への出席が悪く、全体のものにならなかっただけでなく、なぜこのテーマを学習するのか問題者一人ひとりがさせられていまい、そのため一部劇団員の報告に終ってしまった。しかし、この理由が全体のものとしてしっかりと体系化されないままとしての存在理由はうすい。

来年は('70)東西リ演で「綱領」をもつ。地域劇団労働者劇団のこうした方向は、長11年耳、働くものの演劇は、労働者階級に寄り寄りながらすくめられ、全体の演劇運動の右側での位置づけがはっきりとされて来ていることを意味する。それは、われわれの演劇が、往々のように、中央の演劇を軽視「マネ」して来じ時代は去り、真に働くもののためとなる新しい新劇を創造し善きする独自の歩みを始めたことにほがらかだ。

労基日

芸芸も、株々の問題を色々な角度から検討し、方向を明確にして、東京演にあける、芸芸における創造・組織の理念を明確にすることを必要である。と提起し、議合いはるされたのであるが、やはりまだ劇団員全体のものになっていない。実動の多くが新しい劇団員であるし、古い劇団員の活動がますます困難になっている現状で、これらの問題をどう考え方、具体的にどうすればよいのか?これらの矛盾や困難を生んでいる内因原因は何なのか?いずれにしても議合いは根気のいる仕事だ。

○創造技術の向上とスタッフの活性化について

問題提起とともに具体的な方法について議合いが行なわれた。又、現状分析についてそれぞれの意見や、現状を不満としての要求も出された。

一つの結論として、演出部、演技部という部が、公演の折のスタッフ・キャストの供給源であるような現状をうちやぶり、それそれが技術向上の研究对象である様にし、能率の仕事、演出の仕事に対して理解を深めるとともにその技術向上に役立つ実践的訓練の方法を見つけ出し、工夫し、実行していく必要性が述べられた。例えば、効果研究班のごときものが生まれ、結果を持ち、作り、工夫し、実際に公演にタッチし、対外的な注文にも応じ、やがては劇団効果部として独立して行くよう方向を打出して行くべく、演出部・演技部の技術向上のための議合いが各部でもたれることを確認した。また独自の強化方法を生み出すだけではなく、外部からの技術等への方法についても考えていくにはならないし、劇團での日常訓練の活性化、日常生活の中での訓練の問題についても全体で議合い、質を高めて行くために工夫、実践していくことが確認されました。

5. 研究生

芸芸の研究生は、11名0名です。新劇団員は研究生としては4期になります。4期生は6月1日からコースに入って70年の4月1日から新劇団員になります。6名です。そして現在4名になってしまいました。研究時代の途中から入った人をふくめて12名になります。

次5期生は9月末から2月末頃までのコースで始めます。

今四期の仲間は新人公演ということで、丘場作「三家橋」を稽古しています。

○ 70年春劇行動「アキナワ」

6月13日 社会文化会館 6月20日 品川公会堂

6月28日 大宮市民会館

(12頁へ続く)

東り演南東ブロック「70演劇行動」・劇団労芸・塙芸・他の合同公演
「太陽ナワ」は、ミステージ、1100名の観客を動員して幕をとじました。

今日はこのとり組みは、非常に困難な苦しい仕事でした。それだけに、このとり組みの中で得た一つひとつ成果と教訓は、両劇団の今後の運動にとって重要なものでした。

舞台の評価はさきまで、一言でよかったですと言えません。が、舞台に「厚み」を生んだことは確かなようです。労演の活動家たちは「従来になく専念してみられた。」「舞台に量感があった。」等の発言をしていました。

私たちの舞台創造で一つに不足しているのが、その量感であり、又、客席で活躍して觀ることの出来ない不安を感じさせる弱点が多々あります。こうしたことを両劇団の合同公演によって、まづはめぐい去ったことに一つの教訓があります。さゝやかもがらきづきあげたこの厚みは、各劇団にわかれにとしても、みごたえのある舞台へと進化する力にもると見えます。

両劇団の役者会では、両劇団の合同公演の意義をもっとにつめてから取組む必要があつたと発言しています。このことはより裏面をよくので暗しますが、たゞ一言いいますと、東り演南東ブロックとしての統一が充分でなく東り演南東の劇団が、東り演活動と劇団活動を対比、もしくは別のものとしてどうえている所やさりがあると見えます。したがって、両劇団の合同公演の意義のどうえ方においての弱点の一つは、南東ブロックの70年演劇行動取組みのプロセスに原因あるのです。この壁を越すことによって、東り演とは、各劇団にとって「なんぞのか」が提起され、運動発展の条件になるのではないでしょうか。

(以上)

劇団活動報告

1970.7.20

| | | | |
|--------|---|------|-----------|
| 劇団名 | 劇団やまなみ | | |
| 劇団住所 | 山梨県甲府市青沼1-8-5 | | |
| 電話 | (0552)-33-9558 | | |
| 劇団の創立 | 1955年10月 | | |
| 劇団員の年数 | 1年未満 | 男1名 | 女6名 計7名 |
| | 5年未満 | 男8名 | 女2名 計12名 |
| | 10年未満 | 男3名 | 女2名 計5名 |
| | 10年以上 | 男2名 | 女2名 計4名 |
| | 合計 | 男14名 | 女16名 計30名 |
| 劇団紹介 | <p>劇団やまなみは「サークル物語」で旗を掲げてから15年になります。戦後の職場・地域演劇の盛んな時代に生まれ、労く者の立場に立つ演劇創造の旗印のもと、多い時は年に5回、少ない時でも2回の定期公演を欠かさず続けて来ました。「労働組合の余興芝居」とか「原爆劇団」とか陰口をいわれるほど、労働者を描き、原爆をとりあげ、社会の歪みを追いつづけ、そして沢山の人々に問題を投げつづけてきました。</p> <p>劇団は発足当時に1度、また60年安保後のいわゆる「ライシャワー路線」のあきらかになりつつあった時実に1度、あわせて2度の「政治的な」理由による「分裂」の波にあいました。この「分裂」によって生まれた劇団が2つとも、1969年から70年にかけて、活動停止、解散となり、一方63年の「分裂」後、「労くもの立場に立つ」理念を一層深め実践して来た私たちの劇団が、15週年をこの秋迎え、着実な歩みを続け、いつぞう大きく飛躍しようとしているのは現在の全国的な文化状況の一典型ではないかと思ひます。</p> | | |

公演活動の数も増加し、又、期生劇場も一斉に順調に進んでいます。一応は、というのは、今年もう3期生の教育を終り新しい仲間を大量に迎えながら、1期生、2期生の定着率が低いことあります。又、劇団内部に新人セクトが始まっていることもあります。

50人の劇団に……という目標は今年も達成することはできませんでした。

また萬古に追われる他に劇団運営委員など中心的な人物の公私とも多忙に過ぎて、中堅および新人との意志疎遠が充分でない点も認めざるを得ません。

創作面では、「70演劇行動のレパートリー」に、中川恵司の「鬼子——70年への遺言」をとりあげ、また6月には小谷道雄の「あけぼの村からくる月」(エコ稿「あけぼの」提出)が出されました。「あけぼの」については、県内に実際起きた事件であり、関係者も居ることもあり、さらに内外の慎重な旅討の上、来春上演の予定です。

一時期100名余りを抱えた劇団友の会も、その意義、劇団としての主体的とりくみを済められはしまま自然消滅し、現在10数人の会員だけが残っています。6月末には友の会再建の話しありもさきましたが、まだ実際の動きになつて来ていません。

「70演劇行動は「カカツキハ忍者」「モーレツ教育」をもつての小見会参加では、圧倒的な動員とそれによる好評でした。しかし、本公演において、従来比で格段の初回しかできなかつたことは、今後の問題として正しく終結する必要があると思います。

私たちは、私たち自身もその中にあるセッナ

- ヨコの批評についての話しあい
- 12・19 制作はりえて公演「城塞」観劇
- 1・3 制作新年会
- 8 運営委員会=総会に向けて
- 13 オニ期生教育始まる
- 18 制作懇親会
- 2・11 「70年安保と奋斗の講演と医療の仲間のつどい」
「70演劇行動「あかつきの忍者」上演
- 13～脚本选定に入る
- 17 参音との交流会
- 28 村上國治氏歓迎集会にて「クニジをかえせ」上演
- 3・3 公演体験に入る
- 15 「70年奋斗と安保の学習会」、「70演劇行動「あかつ
きの忍者」上演
- 4・26 オニ期生卒業公演「出発」
- 5・1 メーテー集会にて詩の朗誦
- 5・22・23 「70演劇行動」本公演「オムニバス1970」上演
内容「署名」「夜」「あかつきの忍者」「愈手」「
「オキナフ」
- 25～26 わらび座、あさひ座「猪のない川」のとりくみ
- 6・19 脚本选定会式はじまる
- 6・22 6・22文化大集会にて「70演劇行動「モーレツ教育」
上演
- 7・13 球連親人会1・2回
- 19 新婦人祭にて「70演劇行動「モーレツ教育」上演
- 25 原木祭開幕式にて「70演劇行動「モーレツ教育」
上演

劇団名 福岡現代劇場

住所 福岡市大字南庄一丁目 87

電話 福岡 (83) 1696

劇団員 男 9名 女 0名

研究生 男 2名 女 1名

創立年月日 1958年3月3日

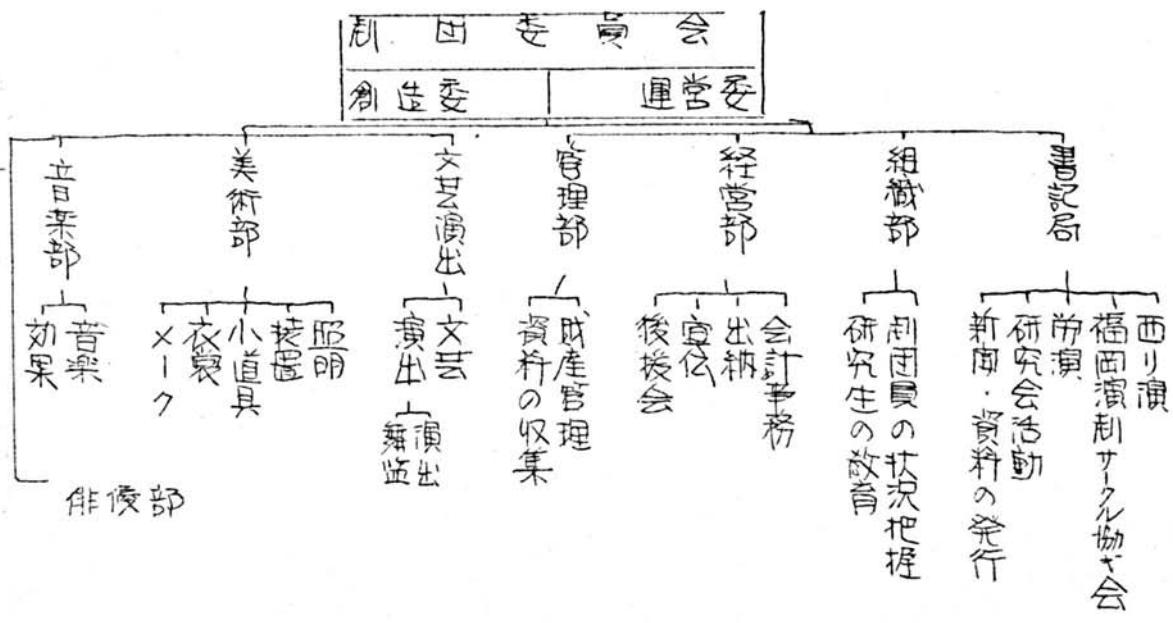
| | | |
|-----|--------|----|
| 劇団員 | 1年未満 | 6名 |
| の年数 | 1年～5年 | 1名 |
| | 5年～10年 | 6名 |
| | 10年以上 | 5名 |

(スローガン)

夢がことが武器となる仲間へ眞実を。

(劇団で△申セ合せ事項)

労働者として現実変革の姿勢を明確にした上で、現代を更に
検し、告発し、変革する武器としての方法の重要さを自覚し
貪慾に学びとり、眞に現実とかかわりあう演劇創造を通じて
観客との交流の中で自らと観客を高めあおう。



劇団の歩み

1958・3 創團結成

オ1回公演
ノーエル・カワード「逢ひき」
創作劇「灰か爪り」

1959・7

オ2回公演
ロルカ「ドンペルレインプリント」
ベリサの庭の恋」

1960・12

オ3回公演
ブレヒト「カラールのおかみさん
の鏡」

1961・5

[4]
ブレヒト「誰よりもやせの持場へ」
(オニ帝國の恐怖と貧困と構成)

1962・3

[5]
創作劇「おれの手におまとの眼を」

1962・11

[6]
創作劇「モ・サビエンスの恋」

1963・6

[7]
創作劇「騒音のあいだ」
・11[8]
宮本研「はだしの青春」

1964・4

[9]
安部公房「制服」

・6

[10]
小島真木「陸橋」

・12

[11]
宮本研「木口小平氏は大死」
諸井条次「洋犬」

1965・6

[12]
アラルコン「三角帽子」

12

[13]
ブレヒト「カラールのおかみさんの鏡」

1966・7

(14)
中村吉載「めし」

・12

(15)
和田澄子「狂歌と私の
セイジヤナリ」

1967・6

(16)
田中千禾夫「雲のほたて」

11

(17)
木下至太郎「和泉屋染物店」

1968・8

(18)
アラルコン「三角帽子」

1969・11

1. 刑場シリーズ №1
裏山青果「玄朴と長英」

1970・3

2. 刑場シリーズ №2
「生と死と 1970」

1970・6

「ク0演劇行動」

活動報告

福岡現代劇場は、1967年創立10周年をすぎてから一定の停滞が生れました。演劇創造における個人主義的傾向、請負主義、劇団活動への集中の欠如、観客の要求の多様化を現象的にし難捉え得たり傾向、駄場ですりへらされた状況をそのまま劇團に持ちこんでいる傾向など原因はいろいろあります。

そこで、私たちは、演劇創造の行動集団である劇団という基本原則に立ちかえって'69年から「小劇場シリーズ」を発足させました。私たちは小劇場シリーズのスローガンを次のように決定しました。

ベトナム解放戦線のように！
小粒でも辛く！
くりかえし、数多く！
未来への展望をこめて！
日本民族の豊かな心を！
不失を推し進めた民衆のちえを！
創り出すことに自らの命をかけ！
創ることと観ることをよりあわせ！
やれや山自身の文化を創り出すために！

小劇場シリーズNo.1は真山青果の「玄朴と長英」で幕を開きました。No.2は今年3月16日 2つの評と3つの作品による構成「死と生と1970」を上演しました。この演

劇行動の作品のなかから「ぼく生きたかった」を、「ベトナムを見てる、のなかから「魂」「送電線」をそらびとり、その間に地元作家の二つの詩『池の主婦の斗争』と板付基地をとりあげて作品で構成しました。

小劇場シリーズ№3は、眞山青果「人斬り以蔵」№4はロルカ「ベルナルダ・アルバの家」№5はモリエール「スカパンの悪だくみ」と今年から来年のはじめにかけて上演へ予定です。いよいよ新しい運動へ方向がヨリ開かれています。

福岡での70演劇行動は、6月8日 制団生活舞台と現代劇場の合同公演を行いました。共に西日本演劇協盟の劇団でありながら今まで合同公演はほとんどありませんでした。それぞれ劇団独自の活動を発展させるには勿論ですが、今後、創造面でも充分に交流できるような合同公演という形式を発展させようという確認がお互の間でできました。「70演劇行動」そのものは観客の数の面でも、舞台成果の面でも不満足な状態に止りました。メディアにはプラカードを持って両劇団員が行進し、チラシをくばり、街頭でも統一行動を組んでチラシをくばるなど、政治行動としての認識と行動はかなり行なわれたのですが、その成果を刈り取り観客として組織し、演劇創造活動としてすぐれた舞台を生み出していくという責任と自覚に欠けていたことがかなりよりも問題でした。

広島国鉄演劇サークル活動報告 (45. 7.)

代表者 尾津訓三

所在地 広島市青崎1丁目16-17 尾津訓三方

構成人員

| | 40代 | 30代 | 29~25 | 24~20 | 計 |
|---|-----|-----|-------|-------|---|
| 男 | 2 | 3 | 1 | 1 | 7 |
| 女 | - | 1 | 2 | 2 | 5 |

会費 300円

創立 昭和33年

これまでの作品

| 年月日 | 作 者 | 題 名 | 備 考 |
|-------------|-----------|-----------|-----|
| 33. 6. 25 | 木崎周二 | 板ばさみ | |
| 34. 12. 6 | 鈴木元一 | 安全塔物語 | |
| 36. 6. 25 | 竹内勇太郎 | 雪女風土記 | |
| 36. 11. 23 | 岡野 | 丹那盆地 | |
| 37. 6. 17 | 山田和男 | 石うす | |
| 37. 11. 23 | 小柳卓三 | 赤い星の降る朝 | |
| 38. 7. 6 | 三島五郎 | 枕木の歌 | |
| 39. 6. 2 | 木崎周二 | たい動 | |
| 39. 10. 11 | クリフォード・オデ | レフティを待ちつつ | |
| 40. 6. 15 | 三島五郎 | 枕木の歌 | |
| 40. 11. 19. | 木下順二 | 三年寝太郎 | |
| 41. 2. 20 | " | " | |
| 41. 12. 4 | 小柳卓三 | 白い汽車 | |
| 41. 6. 29 | 河井正臣 | 白衣の絶唱 | |
| 42. 9. 3 | " | 白衣(改作) | |
| 43. 7. 4 | 大垣はじめ他 | ピカの蔭から | |
| 43. 12. 5 | 山田民雄 | 北赤道海流 | |
| 44. 5. 15 | 大峠 健 | 上せがき | |

活動報告（昭和45年1月～）

1月21日 国労青年部成人式（モーレツ教育）
2月 1日 総会
5日
27日 地区労ブロック大会（モーレツ教育）
28日 演サ協総会
3月 70行動 台本読み
4月17日 村上国治かんげいの集い参加
18日 歌劇沖縄参協力
5月 1日 徳山地区メーデー（モーレツ教育）
3日 憲法会議 （〃）
6月19日 70演劇行動（小さな駅のある物語）
20日

コント

問題点

1. 職場を基礎にして発足したサークルですが、十年経過した現在では国鉄に働くサークリ員は増えないばかりでなく目に見えて減つていく。
(現在、国鉄職場 3名、他職場 9名である。)